



特
3223
58

茶御所

九重日記

第初編

鶴亭作

國輝

画

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

上
六卷



一

花御所九重日記初編序

石川や濱の真砂ハ、
真鶴ハ、
呉竹の伏見ハ、
如ふ花の御所ハ、
四季恋雜神祇釋教余ハ、
よ彫と白ひも、
重なる御評判の程一重ハ、

鶴亭秀賢

慶應二丙





江家次郎

六韜三畧

伊賀國の
軍學武術の師範
百地三太夫安時
石川五右衛門の
師匠



三太夫の
妻
式部

三太夫が妻腹の
一子三之助

三太夫

渾家
婦
香

伊賀國石川村の御士石川五郎大夫
 石川文吾と
 名乗る后よ
 盗賊の張本
 時行と
 天下
 横行は是より



伊賀國石川村の御士石川五郎大夫
 石川文吾と
 名乗る后よ
 盗賊の張本
 時行と
 天下
 横行は是より



伊賀國石川村の御士石川五郎大夫
 石川文吾と
 名乗る后よ
 盗賊の張本
 時行と
 天下
 横行は是より

伊賀國石川村の御士石川五郎大夫
 石川文吾と
 名乗る后よ
 盗賊の張本
 時行と
 天下
 横行は是より







Handwritten text in a cursive script, likely a list of items or descriptions, located at the top of the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a list of items or descriptions, located at the bottom of the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a list of items or descriptions, located at the top of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a list of items or descriptions, located at the bottom of the right page.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the right page.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the bottom of the left page.



師匠の
 名は
 百
 師匠の
 名は
 百

師匠の
 名は
 百
 師匠の
 名は
 百

師匠の
 名は
 百
 師匠の
 名は
 百



師匠の
 名は
 百
 師匠の
 名は
 百

師匠の
 名は
 百
 師匠の
 名は
 百

師匠の
 名は
 百
 師匠の
 名は
 百

つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...
つぎにわが...



國輝画秀賀作

金基... 七... 廿七編... 廿五編... 鶴亭... 梅蝶... 新案... 高賢...
右、殊の外御評判宜く、作者更二世一代の新案、新工夫をこらして、
彫摺ホ、念を入り古今の美本と倣へ、
日本橋通十軒店

水鏡山鳥奇談 四編 秀賀作
五編 國周画

蓬萊嶋臺 三編 魯文作
四編 國綱画

花の御所九重日記 初編 秀賀作
追々 國貞画

文 地本雙紙問屋 金松堂 横山町三丁目 辻岡屋文助梓

初編

一雄齊國輝画

下

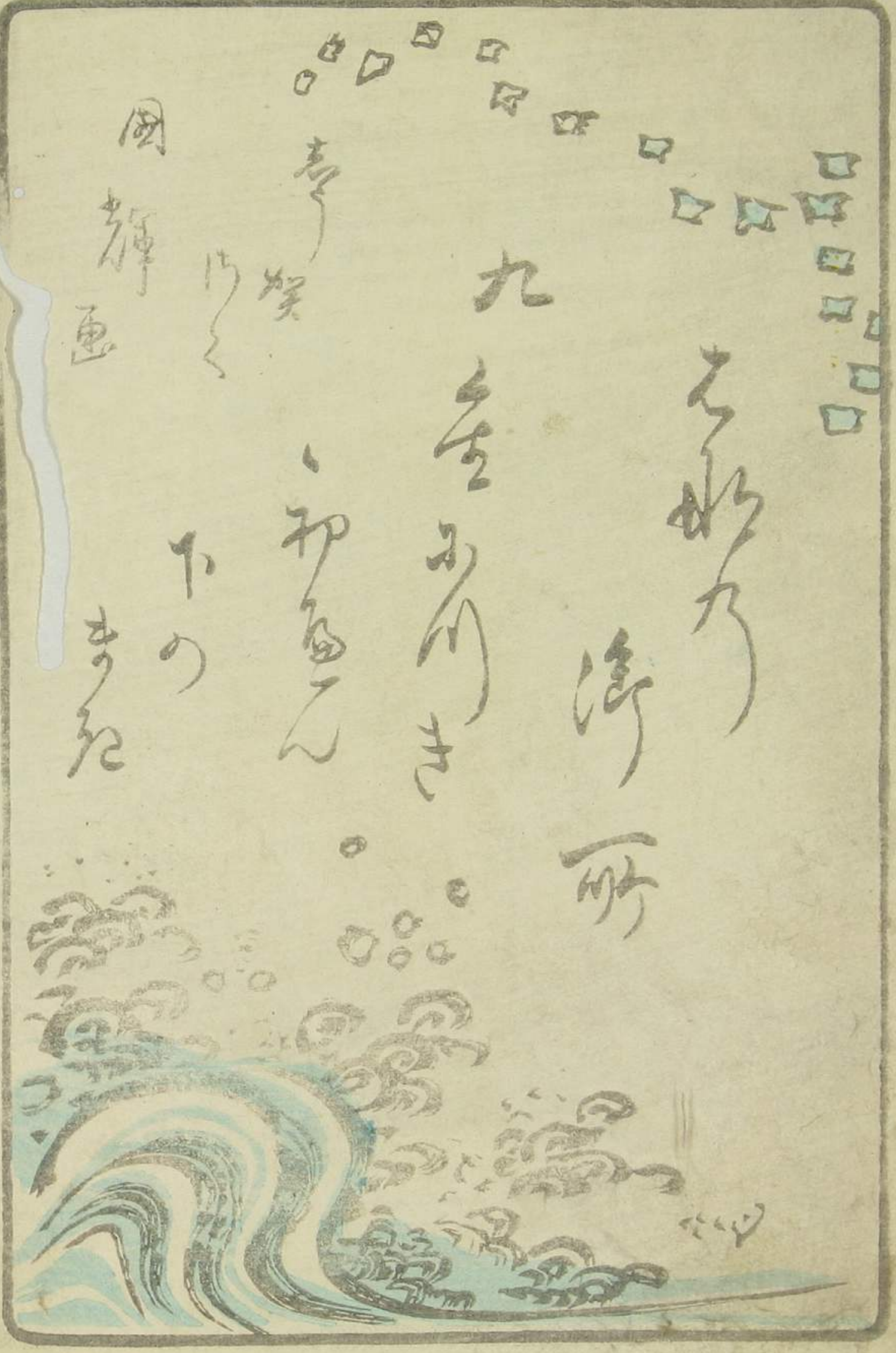


Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely a preface or introductory text.

Handwritten text in vertical columns above the illustration, possibly describing the scene or characters.



Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, likely a signature or a note.



Large calligraphic characters and symbols integrated into the seascape illustration, including '九', '所', and '下'.

三太夫の代り
 の名手
 門分中
 三太夫の
 文音
 師匠
 百人三太夫の
 文音



三太夫の
 横行
 天下
 文音

三太夫の
 師匠
 石川のせんぞ
 三太夫の
 文音



三太夫の
 文音



その
まろ
夜半
井が
半百
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

四郎助
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

三太夫
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ



あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

Three columns of handwritten text in the top half of the right page, likely serving as a prelude or commentary to the illustration below. The text is written in a cursive, historical Japanese style.



A column of handwritten text located to the right of the woman's figure, providing further narrative or context for the scene.

A column of handwritten text located at the bottom right of the page, possibly a signature or a final note related to the illustration.

Vertical text at the bottom left of the right page, possibly a name or a specific title for the scene.

Three columns of handwritten text in the top half of the left page, continuing the narrative or commentary from the opposite page.



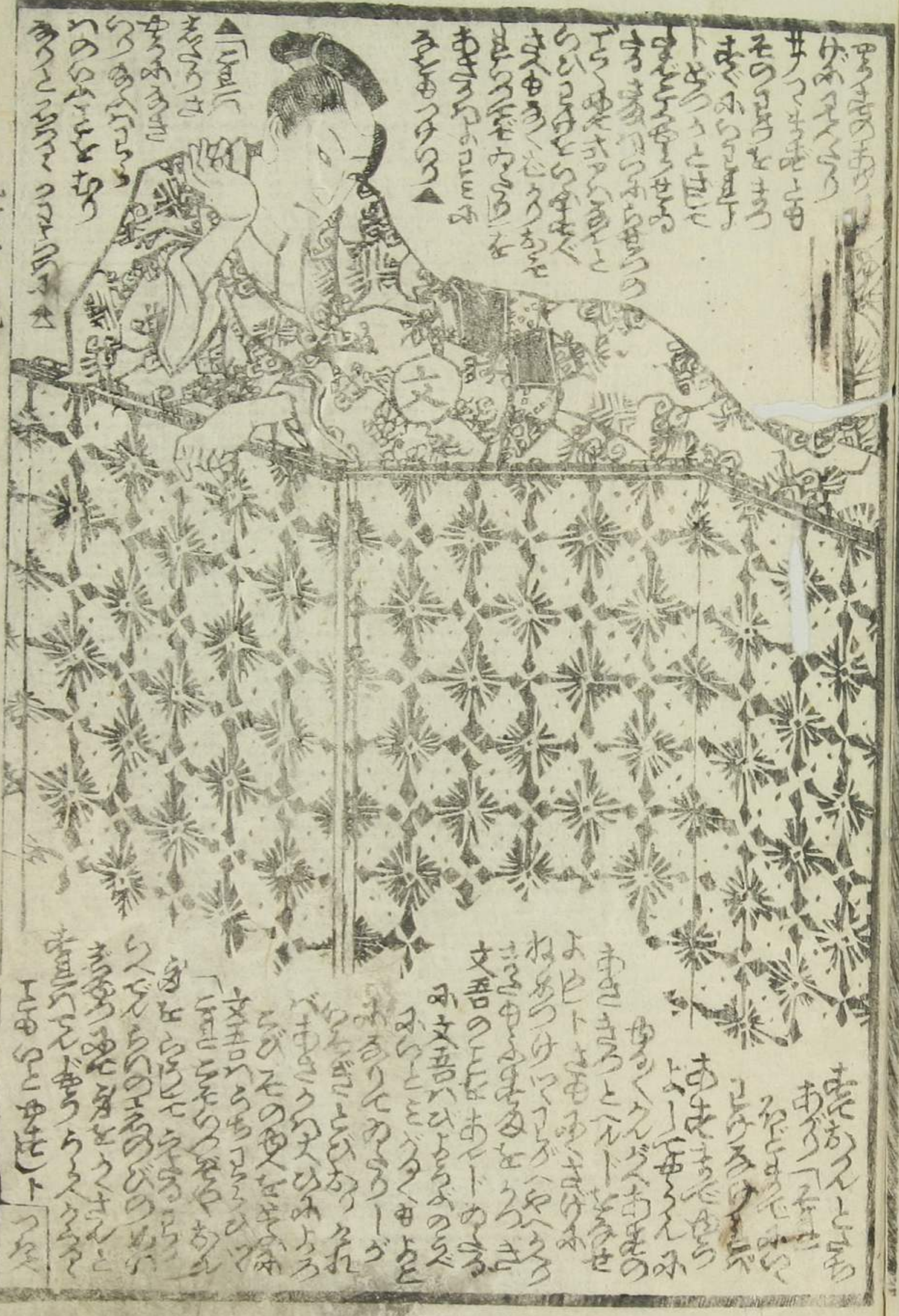
Vertical text at the bottom left of the left page, likely a name or a specific title for the scene.

Small vertical text on the left edge of the left page, possibly a page number or a reference.



此の女は三つ指の指輪を
 手にし、髪は高く結んで
 着飾り、手に扇子を持
 つて立っている。背景に
 格子窓と植物の挿し絵が
 見られる。

此の女は三つ指の指輪を
 手にし、髪は高く結んで
 着飾り、手に扇子を持
 つて立っている。背景に
 格子窓と植物の挿し絵が
 見られる。



此の女は三つ指の指輪を
 手にし、髪は高く結んで
 着飾り、手に扇子を持
 つて立っている。背景に
 格子窓と植物の挿し絵が
 見られる。

此の女は三つ指の指輪を
 手にし、髪は高く結んで
 着飾り、手に扇子を持
 つて立っている。背景に
 格子窓と植物の挿し絵が
 見られる。

花
御
所

上
卷



鶴
亭
秀
賀
作

文
壽
梓





石川文吾

時行

五右衛門

則

是

る

秀賀頭ハ石川非と枕と割て趣向と案下。画工の腹
 鐵み非と共心と碎て畫圖を写して以て作る。物語由石鐵
 の硬さ計りの利屈ハ不流行を共通情月雪や花々敷
 譚而已でも實があらんと堅いと熾々きを凌交て彼らの石川が

花亦所

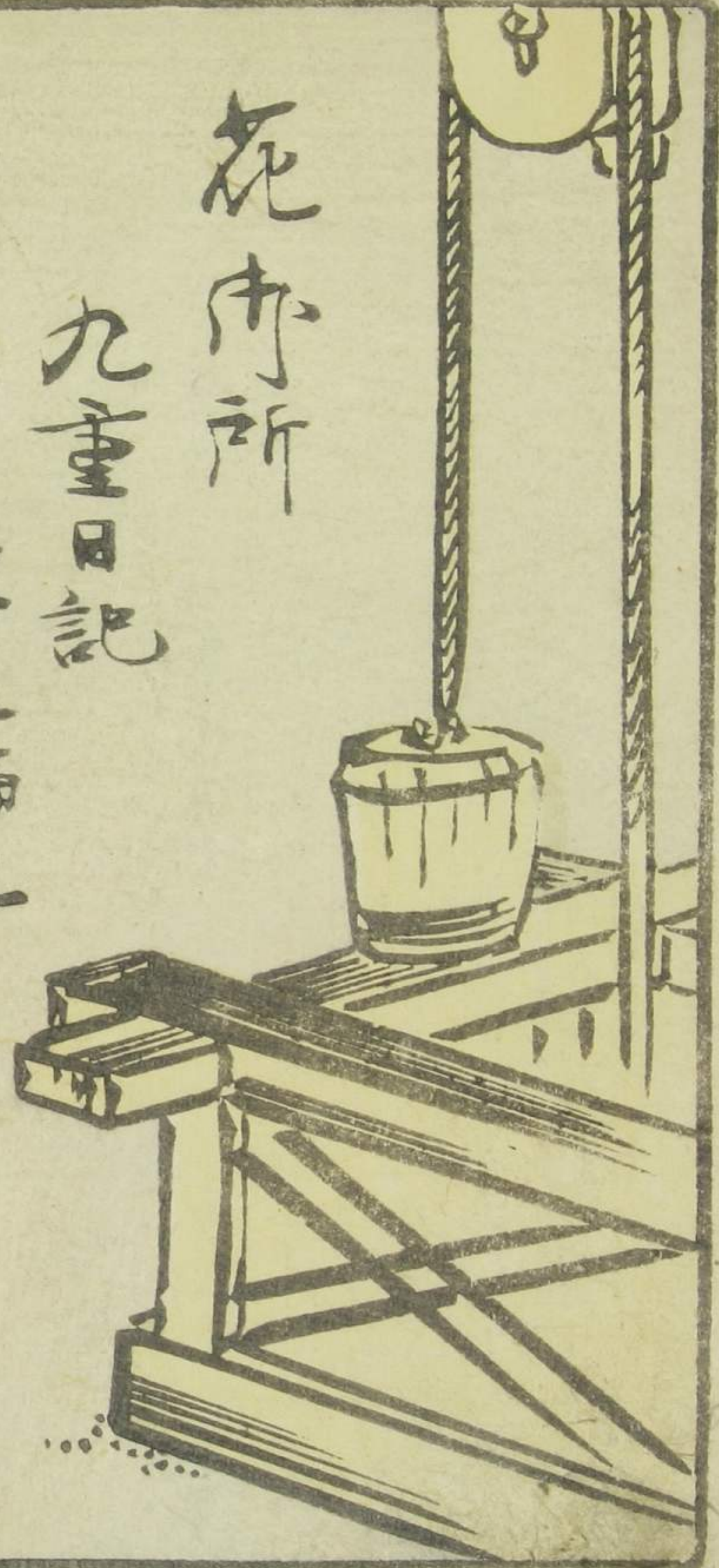
九重日記

第二編上

春霞樓主人作

くにるる也

全和堂新史





○三太夫の愛妾

本妻の
為よ

▲非業の
死を
遂ぐ

愛の三太夫の
女

式部を縊り
井中へ投ぎ

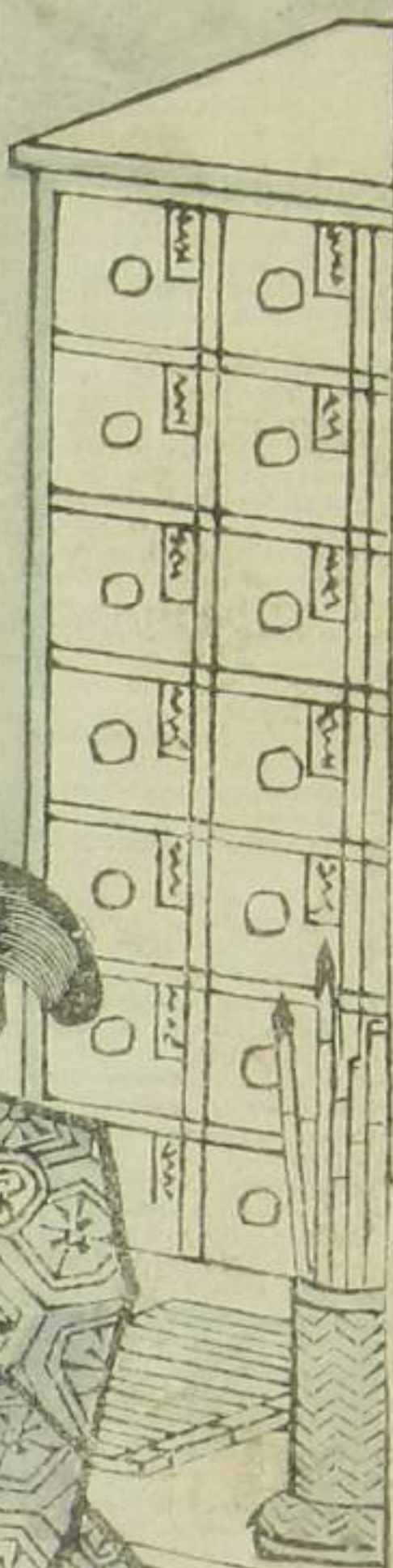


○百地三太夫の
渾家 浅香
悪行増長
と三之
女を毒

同二丙寅新史 烏馬秀賀識

團子きりねど支吾の行跡百地渾家の浅々敷浅香の
悪行式部の横死是彼綴り合々漸み第二輯の稿を脱し畢ぬ
應々應元乙丑稿

○三太夫の



眼科弱井半白

實ハ盗賊ノ

魁首松山

大八

宗行

再出

式部

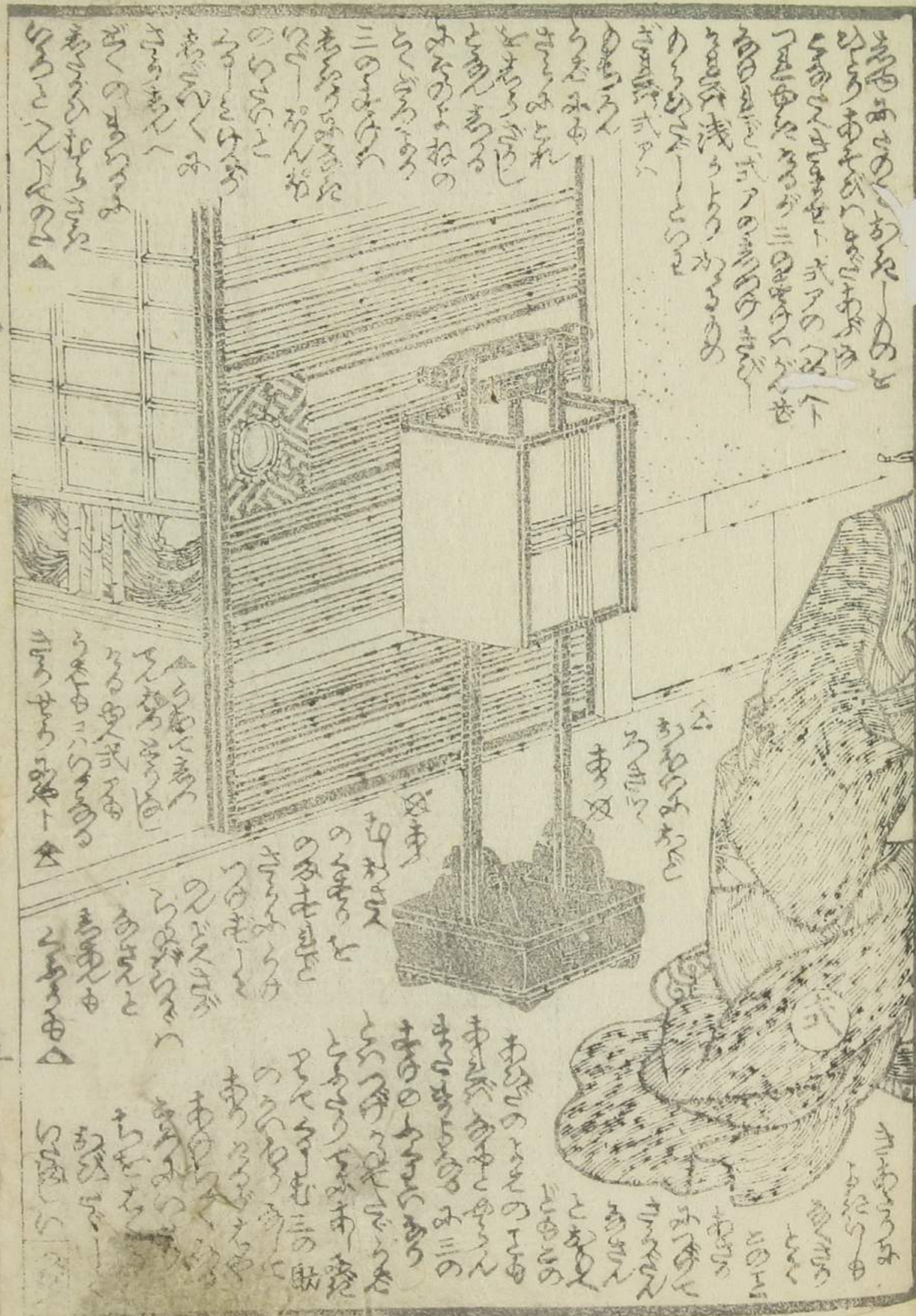


石川文吾... 時行... 大言海...

あつた... 文吾... 宗行... 大言海...



三つ
 七つ
 八つ
 九つ
 十つ
 十一つ
 十二つ
 十三つ
 十四つ
 十五つ
 十六つ
 十七つ
 十八つ
 十九つ
 二十つ



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

三つ
 七つ
 八つ
 九つ
 十つ
 十一つ
 十二つ
 十三つ
 十四つ
 十五つ
 十六つ
 十七つ
 十八つ
 十九つ
 二十つ
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十



211
212



右の殊の外御評判宜しき作者也
 梅蝶樓 鶴亭 秀賀著作
 新案 柳工夫を以てして
 看官競て高麗をねがふ云
 日本橋通十軒店
 繪紙
 武蔵屋勝之助
 右の殊の外御評判宜しき作者也
 梅蝶樓 鶴亭 秀賀著作
 新案 柳工夫を以てして
 看官競て高麗をねがふ云
 日本橋通十軒店
 繪紙
 武蔵屋勝之助

秀賀作國輝画



金華七變化

十七編 梅蝶樓

鶴亭 秀賀著作

右の殊の外御評判宜しき作者也

梅蝶樓 鶴亭 秀賀著作

新案 柳工夫を以てして 看官競て高麗をねがふ云

水鏡山鳥奇談

四編 秀賀作

水製菓子油

日本橋通十軒店 繪紙 武蔵屋勝之助

蓬萊嶋臺 傀儡師

三編 魯文作

花の御所九重日記

初編 秀賀作

折丁子の油ハ和漢マツルシキ菜

文 地本雙紙問屋 金松堂

横山町三丁目 辻岡屋文助梓



歌川國輝画

第二輯



九重

下卷

丙寅
孟春



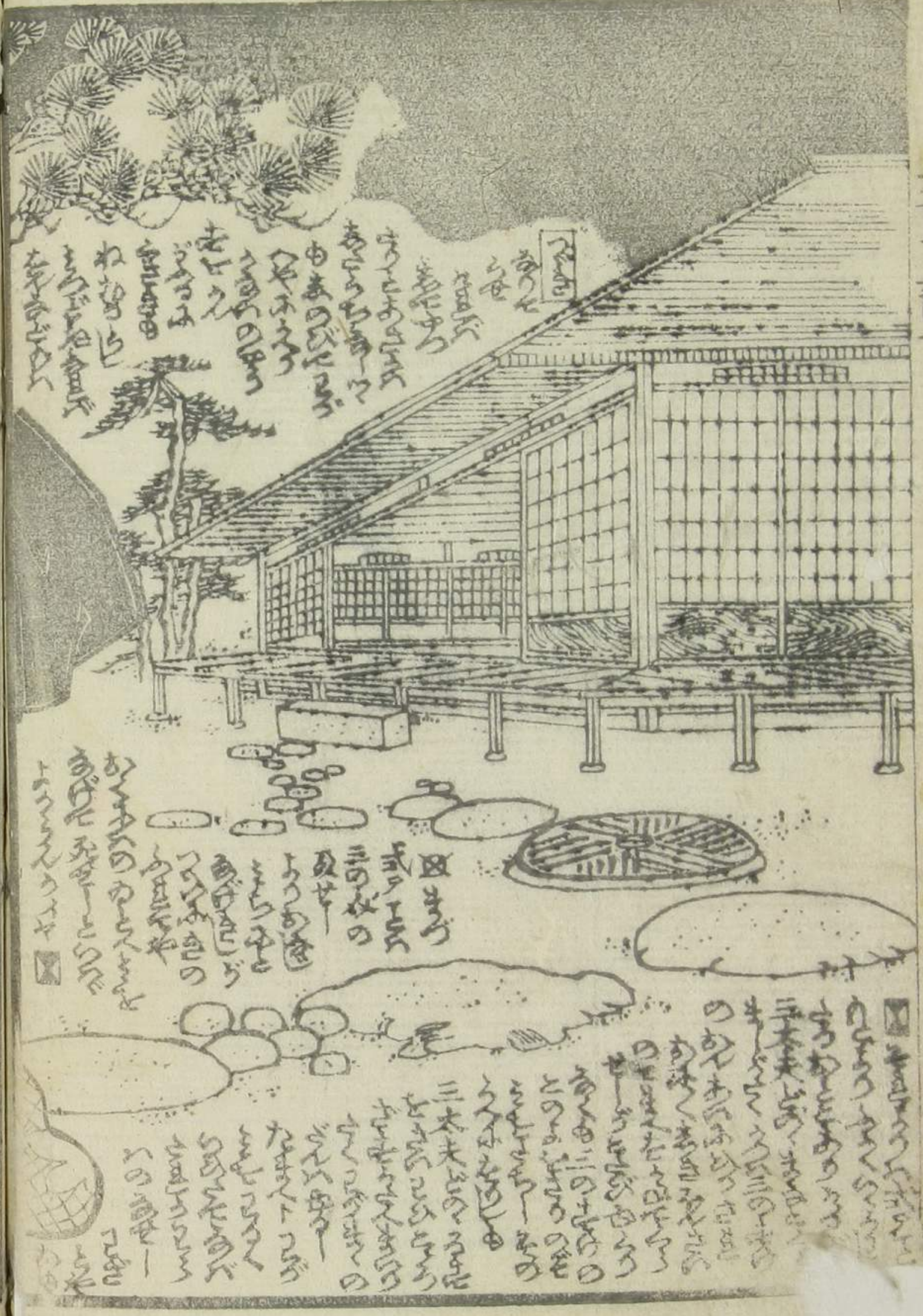
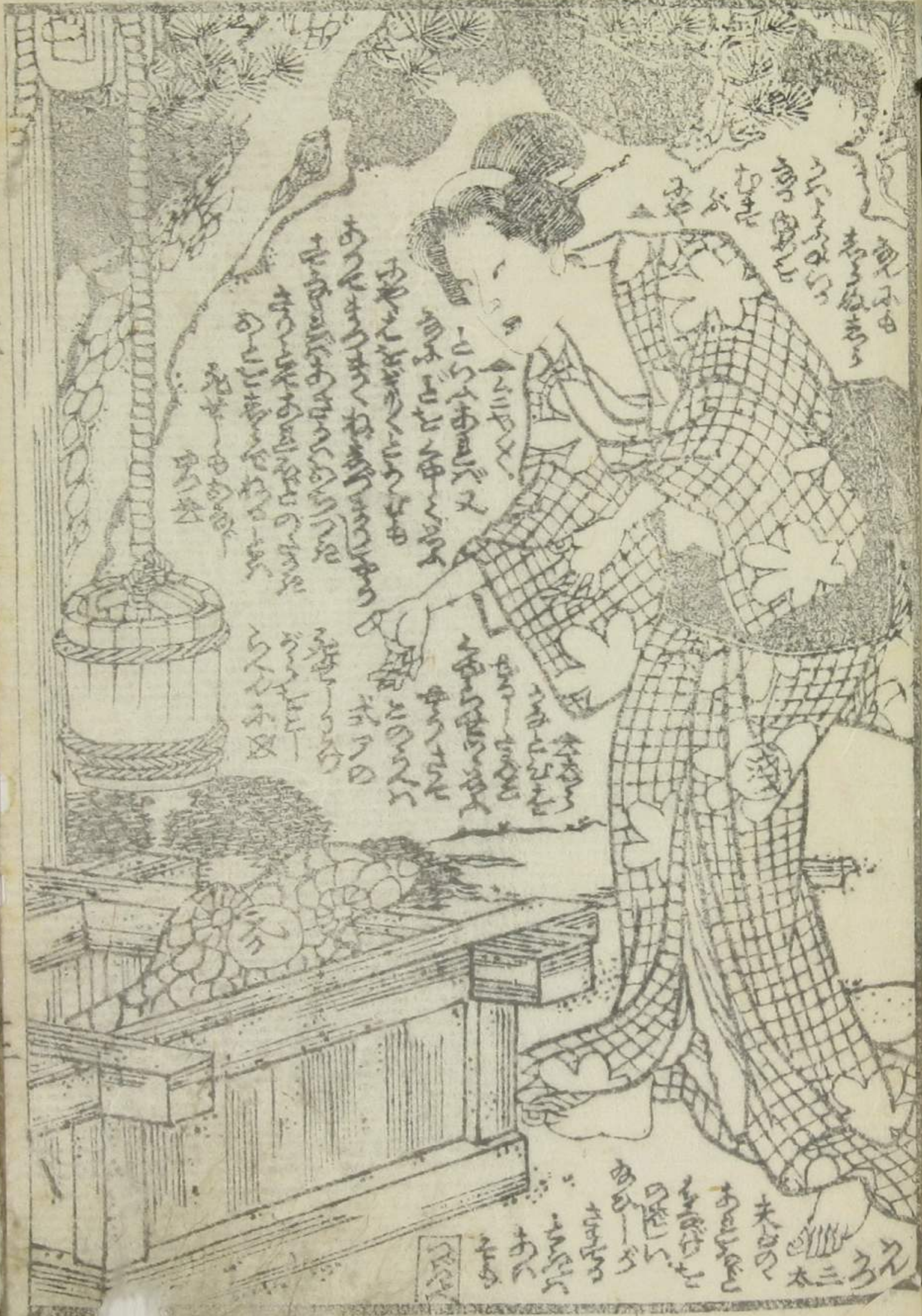
大正四年



花御所九重日記第貳篇
 下卷鶴亭秀賀若歌川園
 輝画金松堂辻文壽撰也

寅春新鑿

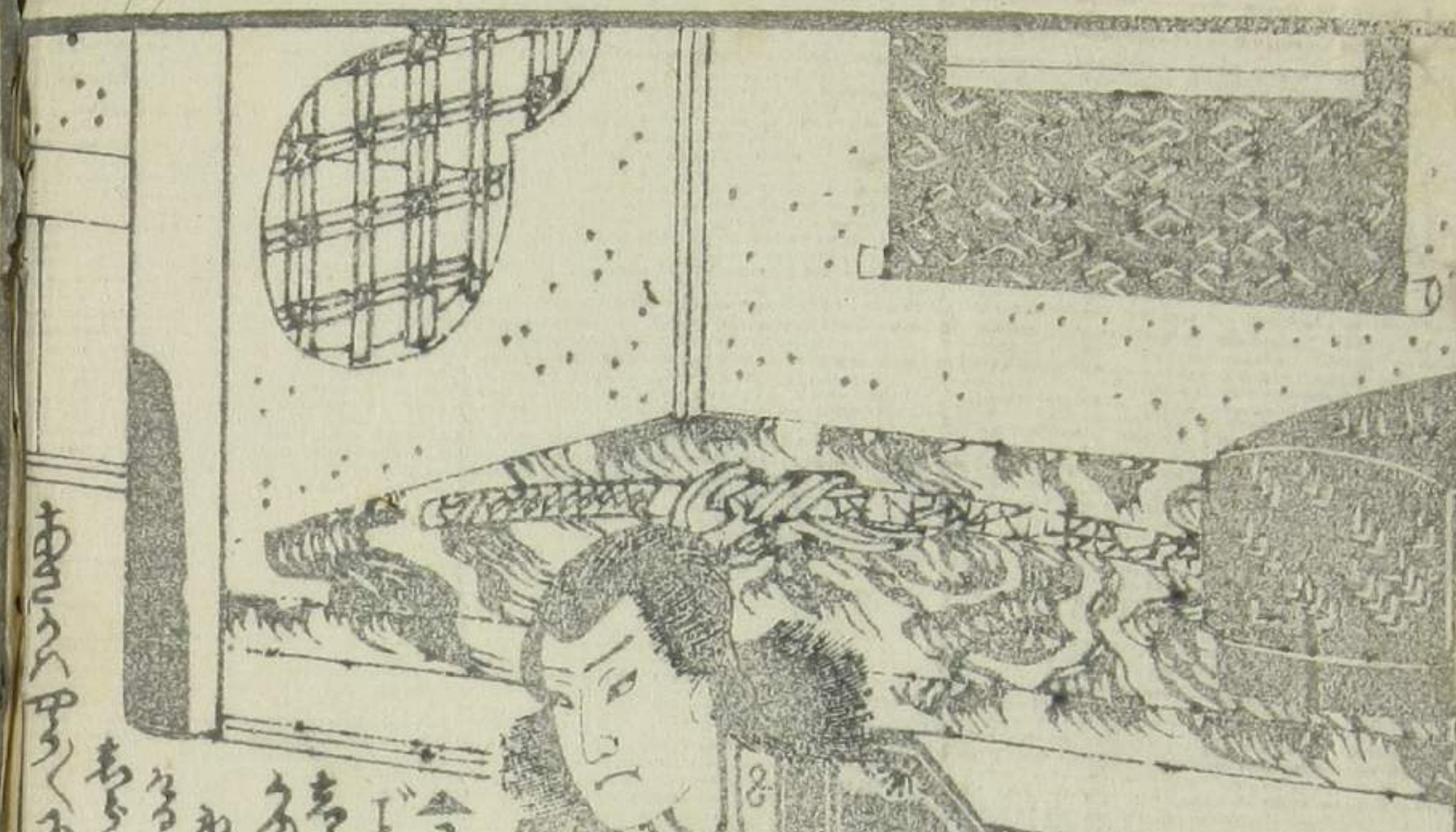




夫のちふまゝに百地幼三本
夫のちふまゝに百地幼三本
夫のちふまゝに百地幼三本
夫のちふまゝに百地幼三本



あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本



あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本

あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本
あつちのちふまゝに百地幼三本

三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代



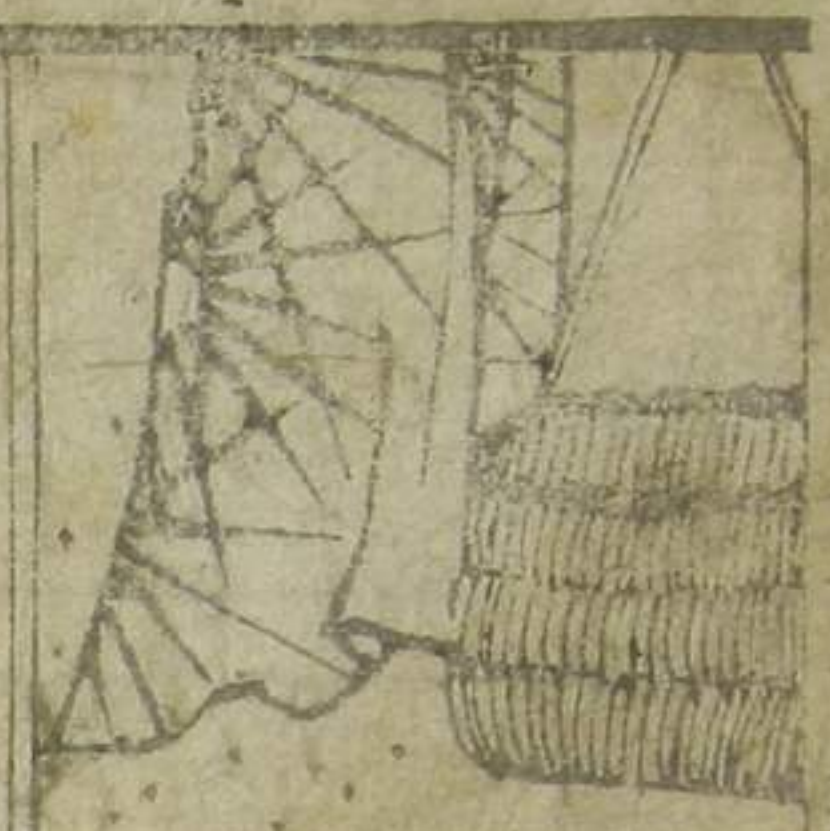
三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代

三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代

三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代



三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代
 三大夫の御代



ついで

ふかのこま
西人のとらふま
そのとらふま
式のもの
ねとらふま
ついで
あついで
このついで
らついで
ふかのこま
ついで



ふかのこま
ついで
あついで
このついで
らついで
ふかのこま
ついで

ついで
あついで
このついで
らついで
ふかのこま
ついで

ついで
あついで
このついで
らついで
ふかのこま
ついで

